

## 「笑顔の輪」

浦安市立堀江中学校2年 関根 由莉

私は小さな頃からチアダンスを習っている。

始めた当時は体を動かす程度であったが現在は本格的に活動している。私のチアダンスは「競技チア」と言ってジャンプや回転、アクロバットも行っており、しっかりとした柔軟性やきめ細かな動作も必要とされる。大会にも出場していて、芸術性を高め、競い合うスポーツ性の高いもので、野球やラグビーを応援するチアダンスとは異なる。

しかし、チアダンスの定義はかわらず、「人を応援し、励まし、見ている人を笑顔に元気にする」というものだ。チアダンスには、「チアスピリット」「ポジティブスピリット」「ボランティアスピリット」という大事にしなければならない3つのスピリットがある。「ボランティアスピリット」は、文字通り、思いやりの気持ちをもって社会に貢献するというものだ。その一環として、私のいるチームでは、老人ホーム・養護学校・地域イベントへの出演、地域のゴミ拾い運動を展開している。

老人ホームのボランティア活動では、高齢者の方々に合わせた童謡や歌謡曲を選び、チーム皆でダンスを考え披露をした。曲が進むにつれ、次第に笑顔に変わる方、曲に乗り体を揺らし、手を叩いてくれる方、そこには、沢山のコミュニケーションが生まれた。施設で働く方々も驚くほど、様々な表情が生まれ、踊っている私たちも沢山の笑顔に包まれ、励まされた。演技の後、手を握って「ありがとう」と言ってくれることがとても嬉しく、自然と全員が笑顔になり、温かい気持ちになった。

養護学校でのボランティア活動は、活動前怖さや不安がとても大きかった。実際、学校の中に入ると、奇声や大きな物音が不規則に聞こえてきた。会場で準備をしている際、座っていられず歩き出す

子や、突然近づいてくる子もいたのでとても驚いた。しかし、音楽がなると、皆が笑顔になり、それぞれに楽しみ、嬉しそうにしている様子が見えた。その時、私は「あ、皆同じなんだ」と感じる事が出来た。そこからは目の前にいる、一人一人の子たちに対し、同じ目線で、ゆっくりと丁寧に、ダンスを教えたり会話をしたり、どうすれば伝える事が出来るのか、考える事ができた。演技後は、「ありがとう」「上手」「楽しい」という言葉や手紙や絵、折り紙などを、たくさん頂く事が出来た。しっかりと言葉を伝えようとする姿や、字が反対になっている手紙、塗り絵がはみ出ているものを見た時、私たちのために一生懸命頑張ってくれたんだなと、とても嬉しい気持ちになった。

これらの活動を通して、「人を見た目で判断してはいけないこと」「ありがとうのパワー」「笑顔や気持ちに連鎖があること」を感じた。高齢者、障害者と言葉は違うけれど、みんな同じ人だ。最初は、分からない、不安なことがあるかもしれない。でも、人を想うことで、触れ合うことで、感謝の気持ちが生まれ誰かが笑顔になる、笑顔になったらまたほかの人も笑顔になる。これはとてもすごいことだと感じる。

反対に今の世の中は、インターネット、SNSが普及し、人と人とが触れ合わずに、情報が簡単に発信でき、拡散することができる。とても便利なものであるが、批判する人は、批判をする人同士での批判の輪を作る。それは、学校生活でも起きてしまっていることで気持ちの連鎖がおこるのであれば、もっと楽しいことや笑顔を連鎖させることのほうが良い。私はそう考える。

いじめや自殺、万引きや薬物使用、そして殺人事件。世の中にはなんでそんな事をするのだろうと思う事件が沢山あるけれど、皆同じ人だ。皆同じ人だけど、考え方が違うこともあるし、理解できないこともある。人と同じになりたくても同じように出来ない人もいる。何かを一生懸命やっている人が、人と違うということで批判さ

れることはとても悲しいことだ。人に寄り添うことで何か変わるかもしれないし、嬉しいことの連鎖がおきるはずだ。その連鎖は、世の中をより良い方向に進めるものだと考える。怖がらずコミュニケーションをとる努力をし、批判するのではなく、お互いを認め合い、支え合うことが重要であると、私は感じる事ができている。それをもっと沢山の人に気づいて欲しい。そして笑顔あふれる世の中であって欲しい。大好きなチアダンスを通じて、笑顔の輪をもっと広げていけるようにこれからも頑張っていきたい。